

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園・学校番号	2 7 4 0 4 1 9
施設名（園名等）	東洋大学附属京北幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

くらべる
—様々な事物を比較し、大きさ、形、色、質感などを楽しむ—

<テーマの設定理由>

幼児期において、五感を通して得た経験を認識し、共有し、言語化する活動は、発達的に重要な意味を持つ。本園では、園庭や砂場、菜園などの環境を生かし、活動や遊びの中で子どもたちが五感を通した豊かな感覚情報を吸収すること、またそれらを整理し、論理的思考の基礎となる「対比」、「段階づけ」、「分類」等を理解し、事物の「同異」を言語化できるようになる学びのプロセスを大切にしている。対象とする年少クラスにおいても環境の中で事物への積極的関心を持ち、活動や遊びの中でも「比較」への理解、大きさや形、色への認識が出てきた。それらへの関心を広げ、観察や遊びを通した探求と理解を深めるためにこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

第一期<準備期>:令和7年5月~7月

- 1)探究活動に広がるような素材や環境を用意する
- 2)菜園における植物の水やり、観察、収穫などの体験を通して、自然の色や形に興味を持つ活動をする

第二期<色の比較>:令和7年10月

- 1)身近なものの色を認識し、その種類や違いに気づく
- 2)色の鮮やかさや色合いの美しさ、その変化を感じる

第三期<形の比較>:令和7年11月

- 1)身近なものの形を認識し、その種類や違いに気づく
- 2)観察体験を通し、ものの形のとらえ方を探究する

第四期<大きさ・長さの比較>:令和7年12月

- 1)身近なものの大きさや長さを認識し、その違いに気づく
- 2)大きい・小さい、長い・短いなどをどのように確認するか、その方法

第五期<質感・触感の比較>:令和8年1月

- 1)身近なものに触れてみて、質感や触感の違いに気づく
- 2)手指の感覚や聴覚、嗅覚など五感を使って、違いを探究する

第六期(振り返り):令和8年2月~3月

- 1)活動の振り返りの会を実施する
- 2)作品を展示し、保護者と共有する

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

1. <色の比較>環境設定(素材:染色紙、ペットボトル、水) ボール・タオル

4~5人のグループで一つの机を囲み、ペットボトル各3本を用意した。大きなボールに入れた水をペットボトルに汲んでみようと演示した。細いペットボトルの口の位置とボールの傾斜の関係など試行錯誤しながら子どもたちが水を汲んだ。小さく切った染色紙をボトルに入れると、流れるように水に色がついていく様子を演示した。子どもたちは、好きな色の染色紙を選び、ペットボトルの中で色が流れ、拡がる様子をじっと見て、色の違いや光による色の変化、混色による変化を楽しんだ。出来上がった色水をグループ内で比べたり、窓際に並んだボトルがきらきら光る様子を楽しんだ。

2. <形の比較>環境設定(素材:画用紙、押葉、立体シール、圧着シート、色ペン)圧着機

4~5人のグループで一つの机を囲み、いろいろな形の押葉と画用紙、ペン(各2色)が用意された。押葉の形や色の違いを比べ、感触を確かめた後、画用紙に好きな形の押葉を選んで貼った。目の形の立体シールをそこに加えて貼り、そこからイメージした絵を書き加えていくよう声掛けした。目の形の立体シールは、動きがあるので子どもたちを強く引きつけ、葉っぱを顔に見立てた表現を楽しむ様子が見られた。出来上がった絵をラミネーターにかけ、子どもたちがお互いに自分の作品をいろいろな方向から見て楽しんだり、何を表現したか話し合ったりしていた。

3. <大きさ・長さの比較>環境設定(素材:画用紙、シールペーパー、スプーン)

4~5人のグループで一つの机を囲み、画用紙1枚と長方形のシールペーパーを子どもたちの手元に置いた。画用紙にシールペーパーを貼り、道を作っていこうと呼びかけ、①道には入口と出口があること、②道はシールペーパーをつなげて作ることを伝えた。道ができたところで、「まちを作っていこうか」と声かけすると、家やお店などを描き足して、それぞれに「まち」を描いていった。道のパーツとして、カーブを描くシールペーパーを素材として追加したところ、それぞれの街づくりのイメージが広がった。「まち」が出来上がったところで、(事前に作ってあった)スプーン人形を配り、「みんなのまちをお散歩させてあげよう。」と声かけした。人形に語りかけながらお散歩を楽しむ様子が見られた。

4. <質感・触感の比較>環境設定(素材:白砂、立体シート、カップ、乳飲料容器等)

4~5人のグループで一つのシートを囲み、そこにペットボトルに入った白い砂をおき、シートに砂を広げていこうと演示した。砂の流れ方や広がり、落ちる音の違いを感じられるよう声かけしながら、砂の感触を楽しむ活動を行った。集める、つまむ、山を作る、ならすなど、子どもたちがそれぞれに素手で砂の感触を確かめ、「さらさらー」「つめたーい」「きらきら、きれい」と感触を楽しんだ。活動を広げる素材として、プリンカップや乳飲料容器、木の実などを用意しておき、様子を見ながらそれらを適宜シートに入れていき、それを使った砂遊びの展開を促した。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

講師からは、各回の活動の中で園児の主体的活動をどう引き出していくか、テーマに沿った活動をより創造的、探究的なものにしていくためのスモールステップの進め方について助言いただいた。3 歳児の発達段階を踏まえると、選択の自由度の調整が活動の質に関わってくるため、素材の準備においてもこの点を念頭に進めた。また、活動における園児の反応やかかわりを見ながら、観察、選択、創造のプロセスにおいて園児が主体的に「違い」に気づいていけるよう、声掛けをしていったことにより、活動の深まりが見られた。特に、<色の比較>では、光を通した色水の鮮やかさが園児を引きつけ、お互いに色の違いに興味を持ち、何度も比べ合う姿が印象的だった。活動の素材を選ぶ際、園児にとって素材との出会いに新鮮な驚きや感動があるかという点は重要であり、素材の選び方やその提示の仕方が探究活動の深まりや広がりにとって重要であることを改めて認識した。来年度は、4 歳児(年中クラス)での展開となるため、発達段階を踏まえ、プログラムの再構成を検討したい。